

(様式第4号)

第2回 上田市子ども・子育て会議 会議概要

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日 時	平成29年11月1日 午後1時30分から午後3時20分まで
3 会 場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出 席 者	金山会長、若林副会長、神原委員、倉澤委員、小池委員、清水(綾)委員、清水(孝)委員、春原委員、寺田委員、中澤委員、中村委員、宮下委員、山寄委員 (欠席委員) 飯島委員、尾和委員、下村委員、高橋委員、瀧本委員、寺尾委員、畑中委員
5 市側出席者	小林健康こども未来部長、石井健康推進課長、細川保育課長、高木学校教育課長、山賀子育て・子育て支援課長、遠藤母子・精神保健担当係長、間宮保育担当係長、下林保育担当係長、小山障がい者支援担当係長、白鳥放課後こども育成係長、宮入青少年係長、市川雇用促進係長、三井住宅管理係長、久保田男女共同参画係長、中村子育て・子育て支援担当係長、遠藤子育て・子育て支援担当係長、清水子ども家庭福祉担当係長、小宮山発達相談センター次長、半田主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成29年11月10日
協 議 事 項 等	
1 開 会	(山賀子育て・子育て支援課長)
2 あいさつ	(小林健康こども未来部部長)
3 議 事	<p>(1) 「子ども・子育て支援事業計画」の中間年の見直し(案)について 資料1について説明</p> <p>以降、御意見</p> <p>(委員) 児童クラブ・児童センターを利用する子どもたちが増えている。 8割くらいの子が学校から直接児童館に来ている。 ニーズが増えているので見直しをして環境を整えてほしい。</p> <p>(委員) 児童クラブの計画は、現場の感覚と大きくちがうという印象。 一時預かり事業もしているので、施設の定員と利用人数が違う。 環境を整える視点がみえない。</p> <p>(事務局) 待機児童を出さないように施設整備をしていきたいと考えている。 整備については民間の力も借りながら対応していきたい。</p> <p>(委員) 今幼稚園以外の一時預かりについて、断っている人数を把握していないということだが、リフレッシュ目的の人がほかの日にずらすという話を聞くので、保育士確保をお願いしたい。 電話だと緊張度が伝わりにくいリフレッシュもあるので、しんどい人と紙一重の人がいることを思って対応してほしい。</p>

保育士不足は地域の知恵など借りながら解決してほしい。

(委員)

放課後児童クラブは少子化なのに利用が増えている。

高学年でも利用が多く、留守番して宿題して親の帰りを待つ、というような家族の一員としての心の成長もほしいが、親が「一人は心配だから」という理由で預けている。

地域で子どもが遊んでいない、家にいる子はゲームが多い、親との関わりが少ないのが心配。

指導員が足りないが、資質が必要で研修に行ったりして活性化している現状がある。

そういうところを見てもらっている見直し案でありがたい

(委員)

放課後児童クラブは人数や広さだけでない問題を感じる。

特別な支援が必要な子が多いので、専門知識を持った人のサポートをお願いしたい。

養護学校のコーディネーターの活用などでカバーできるのではないかな。

(2) 今後のスケジュールについて

意見記入用紙提出のお願い、スケジュール確認

パブリックコメントを経て第3回は1月24日

(3) 意見交換

委員の考え、日ごろの取組など

(委員)

マタハラの問題、鬱から精神科になってしまうので注意が必要に感じる。

0～2歳児は突然死等危険な年齢なので、保育に携わる人のリスクを意識した対策をしてほしい。

上田市だけでなく、長野県のお産をなんとかしようと考えていかないと成り立たない。

他地域を援助できるようにお互いさまという気持ちを持ってほしい。

(委員)

ガイドラインでは発達支援が必要な境目の子は、地域の子どもの集団の中で育てようという内容になっていて、そういった子を受け入れる研修システムが早急に必要と考える。

医療センターの児童精神科医の診療が10か月待ちだった。大きな課題のまま変化がない。

保育園で15,6歳で母親になった人のサポートが必要になっている。教育の中での性教育、支えるシステムが課題。

(委員)

預かりの希望がかなり多く、一時保育は仕事優先の傾向にある。

設備充実・人材確保はいつもと言われるが、具体的に前向きに考えないといけない。

数だけいればいいのではなく、労働条件がよければ働きたい人はいる。

(委員)

上越市では9月下旬から子育て支援拠点の中で一時預かりをはじめたが、働きやすさで保育士が集まった。

産むときと、子育てしながらも肩身が狭いことは改善してほしい。

(委員)

自治会の立場で子どもたちに対しての取組をして地域で役に立てればいいと思う。

(委員)

職員の出産が続き雇用が必要だが、労働条件が課題と感じた。
社会が必要としているので、365日24時間対応する職員が必要。
条件は大事だが「やりがい」のところがあるはず。
出産して辞めるのはもったいない、祖父母、父母など家族、地域ぐるみで支えていく必要。

(委員)

事業所の立場で働きやすい環境を作っていかなければいけない必要を感じる。
商工会議所で経営者に協力してもらえるよう考えていきたい。

(委員)

サービスの受け手側の立場として、一時預かり・学童等を利用する側のモラルも必要と思う。
託児がある職場で、仕事と預け先が同時に決まるメリットで募集すると多く集まるが、仕事の内容で
あきらめてしまうこともある。
民間に働きかければ立ち上がる企業も出てくる。
埋もれているスキルを持ったお母さんを社会に出す仕組みができるといい。

(委員)

子育て支援団体で0～3歳児とその親と接しているが、早く仕事がしたい、できることを生かした
と考えている人が多いと感じる。
講座等やりたいと思っても、場所がない、お金がかかってくる問題がでてくるので、どこかで場
を提供してもらえる等してほしい。
民間で何かやるとき、行政ではチラシを置けないと言われるが、親子向けのものは広く知ってもら
えるよう協力してほしい。

(委員)

放課後児童クラブでは国でも障害を持った子の受け入れを促進している。
今年4月の補助金要綱で障がい児加算は一枠1,796,000円、3人超えると2枠になる。
上田市では受け入れている
勤続年数が全国平均で3年といわれているが、経験豊富な職員を増やすための処遇改善をお願いした
い。

(委員)

子育てひろばは市の委託を受けてやっていて、週3日必ず来る人がいるくらい利用されている。
問題抱えた不安を持つ親子がいる中で、子育て支援コーディネーターと相談しながら進めることがで
き、市でいろいろ考えてもらい感謝している